

○佐賀大教育 赤星礼子 元福岡教育大 平田 昌  
東筑紫短大 花崎正子 西九州大家政 河野孝子

目的 本報告は、「九州における高齢者の生活実態」を解析するため「佐賀県伊万里市大川町におけるⅠ～Ⅳ」に続いて実施した、「佐賀県の養護老人ホームにおけるⅤⅥ」調査研究の1部である。養護老人ホームでは、女性入所者が多く、その入所期間も長い。養護老人ホームにおける老後生活も、女性問題といえることができる。また、結婚歴や子の有無、入所時年齢等においても男女差が顕著である。本報告では、女性入所者に絞ってそのライフコースを分析し、ホーム入所に至った原因を探りたい。そこから今後の九州における高齢者の生活のあり方への示唆を得たいと考えている。

方法 調査期日は、昭和62年7月第4・5週目である。調査対象者は、伊万里市と三養基郡の2ホームの入所者である。調査方法は、ケース記録と日誌の転記、さらに入所者の半数に質問紙法による面接調査を実施した。本報告で用いるのは女性入所者104名の中、明治30～39年生まれ38、40～大正5年生まれ37、6～15年生まれ25の100名である。

結果 入所女性の生活歴を、結婚と出産の経験の有無によって、子の生存、離婚・再婚死別の経験の有無を分類すると26のライフコースモデルが得られる。該当者があったのは21コースである。この分類表をみると、未婚者8、既婚・出産経験なし40、既婚・出産経験あり52となり、さらに離婚経験あり31、再婚経験あり30である。入所女性のライフコースは多様であることがわかる。なお、本報告の対象者は、養護老人ホーム入所者の極一部分であるということに留意したい。また、調査結果を今後の高齢者の生活への提言に生かすには、現入所女性の生きた時代背景・生活階層についての掘り下げも必要であろう。